

授業中の居眠りで成績に影響するか？

渡邊 朗伸

金子 拓海

平田 大貴

1. 目的 授業中の居眠りと成績に関係はあるのかを調べたい。

2. 方法 50人の大学生に GoogleForm でアンケートを取った。
授業中の居眠りで、成績にどのような影響があるのかを調べた。
今回、大学生 50人に聞きました

3.結果 授業中に寝たことがあると言っている人は全体の 63%で半分以上の人が寝たことがあることが分かった。あまり寝ないと答えたひとよりも多かった

寝る理由として、ただ眠いという事という理由が1位で、次いで授業がつまらないが2位、怒られないからが3位でした。眠くなる授業形態として、1位が話を聞くだけの授業、2位が映像ばかりの授業、3位が授業中にレポートを書くになりました。

罪悪感はあるかにあると答えた人は29%もいることが分かりました。

寝ない理由として、1位が講義を聞きたい。2位が授業料を払っているから。3位が成績のためになりました。眠くならない授業形態として、1位がパソコンを使う。2位がグループワーク、3位が授業内課題があるです。

寝ている人とあまり寝ていない人のGPAの平均値はあまり寝ない人のほうが高いことが分かり、寝ていない人の単位数も寝ている人より多いことが分かった。

4. 考察 このことから、授業中の居眠りはGPAや単位数に影響を与えていることが分かった。主に、「授業形式が講義形式であると受け身になってしまう事」「授業に対する学生の姿勢やモチベーション」この2つが大きな原因であり、この2つの内のどちらかが変化すると寝る可能性が高くなることが分かった。